

50周年記念山行 烏帽子岳～針ノ木峠 山行報告

【日 程】 8月11日（木）～13日（土）（10日夜行）

【メンバー】 CL 佐藤健 SL 加藤 菊池 村尾（車・記録）

【山 域】 北アルプス北部

【行動時間・記録】

10 日水：

千葉駅北口 19:00 集合。長距離なので早めのスタートとした。さすがのお盆連休のスタートと絡んで、都内、府中付近でも一部渋滞しサービスエリアも人でごった返し。安曇野 IC で下りて七倉に（七倉山荘前市民駐車場—無料）25 時位に到着。夜間運転疲れや久しぶりの本格縦走前であり良く寝付けず。10 日夜は、駐車場の空きスペースにテントを張っての仮眠 OK だったが、翌 11 日からは満杯で車をとめるだけでもきつかったらしい。

11 日木：晴れ <山の日休日>設定後の初めての山行だ！ どこも混んでいるわけだ。

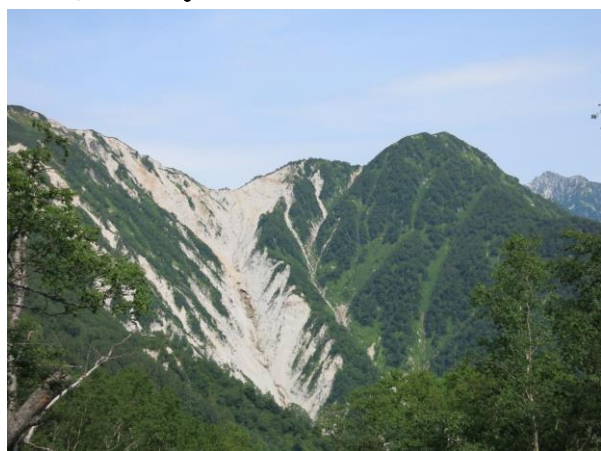
【コースタイム】 七倉駐車場 6:10→高瀬ダム 6:20 ブナ立尾根経由で 烏帽子小屋 12:20 着（行動：13:00～烏帽子岳へピストン～15:00 小屋到着（行動：約 8 時間）



<高瀬ダムまで TAXI>

4:30 起床のテント後片付け・朝食の後 5:30 から高瀬ダムまで TAXI ピストンの長蛇の列に並ぶ。10 分ほどでダムの上。バナーを広げてミッションスタート。大きな水の無い砂川（不動沢？）の長いつり橋を渡り登山口へ。ブナ立尾根を烏帽子小屋に向け出発。この登山道は、小屋を 0 として登山道が全部で 12 のピッチに区切っており上る都度に 12→11→10 と表示があるので親切だ。ブナ林、針葉樹と樹林帯が続き、さほどの暑さを感じず登れた。標高差約 1200m の日本三大急登というらしいが、甲斐駒の黒戸尾根ほどではなかった感じた。尾根までの眺望はいまいちだった。

<不動沢を渡って裏銀座登山口>



<ブナ立尾根 登り>

<明日縦走する南沢～不動岳を見上げる>



＜烏帽子小屋で記念撮影＞



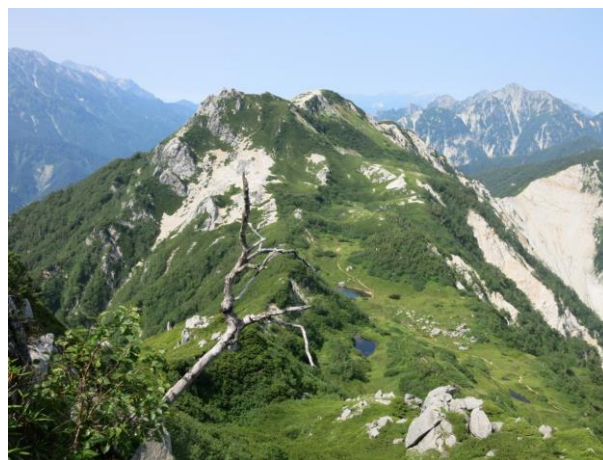
＜烏帽子岳へピストン＞



＜烏帽子ピーク＞



＜後ろは南沢方面 立山や剣山の遠望＞



烏帽子小屋について一休みし、空身で烏帽子岳へピストン。結構な岩場でロープ・鎖の世界。頂上はスペースがなく混雑していたが、眺望はご覧のように抜群！今日の大汗のご褒美だ。

テン場は、公称 20 張？で 12:30 に着いたグループでも満杯を理由に＜小屋泊まり＞とさせられる。この時期、テン泊は収容キャパと到着時間には気を付けたい。途中で一緒にになった船山の 7 人グループは、間に合って張れたようだ。



＜烏帽子小屋のテン場＞



＜小屋前のイワギキョウ花壇＞

12日：晴れ／夕方やや曇り

【コースタイム】 烏帽子小屋 5:40→ 南沢岳 7:40→不動岳 9:35→ 船窪山頂 14:50→ テン場近くの水場 (30分) → 船窪山荘 着 17:00 (行動：9時間40分)



＜烏帽子岳の裏（北）側は全く別の山容＞



＜船窪岳山頂＞

2日目烏帽子小屋で早めの朝食をして5:40に出発。昨日行った烏帽子岳を左に見て分岐をそのまま直進。綺麗な池の散在する高原のような景色に出会う。烏帽子も南側から見る岩だらけの厳しくとがった山が裏側（北）から見るとなんとマイルドな山容。これほど前姿と後姿で形の違う山も珍しい。不動岳を超えるとざれた岩場が始まり、崩落した淵が登山道となる場所を通過し船窪岳へ。途中2～300mのアップダウンが繰り返されて真夏の直射日光を浴びてバテて来る。特に船窪第一ピークの前後はロープや鎖のある悪路が多く、神経も使う。乗越を超えて、船窪テン場（船窪小屋からかなり離れている）へ。この10分下のがけの下に水場があるという。バテバテ状態で水場へ。冷たい水で顔を洗い、一気に水を400CCほど飲み干す。うまい！！（テン客でもここへは必ず登山シューズで行く事。ロープを使う場所もあるので手袋と水汲み容器とサブザックがあった方が良い。）この後すぐが船窪小屋と思いきや長い登り階段があり、さらにその後も登り登山道で重い足取りで30分位かかったか？これ以上歩けない！という限界で小屋到着したのは17:00を回っていた。へとへとで動けないでいると、わざわざ外までくご苦労様でした>とお茶を出してくれた。さすが安らぎと気配りの宿、船窪小屋。実は今回のコースの山はあまり知らなかったのだが、この船窪小屋だけは、一度は訪ねたいと思っていた小屋だ。



<野菜を中心としたヘルシーで豪華な5品夕食>



<安らぎとくつろぎの船窪小屋。松澤夫妻を囲んで>

13日：晴れ／夕方曇り

【コースタイム】 船窪小屋 6:00 → 七倉岳 6:30 → 北葛岳 9:50 → 北葛乗越 → 12:25 蓮華岳 → 13:30 針ノ木峠（針ノ木小屋）13:50 → 16:45 大沢小屋 → 17:50 扇沢P TAXIで七倉へ
（行動：約12時間）

8月13日土 まともに歩けるか心配だったが、山小屋と思えぬ豪華な夕食と熟睡と翌日の朝食で少し元気を取り戻し、最後のロングな1日に突入する。気仙沼のあのちば山わかめが広木愛子さん経由でこの小屋に届き、お味噌汁にたくさん入っていた。復興支援に繋がっているわかめが、この小屋に泊まる山人に元気を与えるに繋がっているのかと思うとあらためて感激。

朝食時、宿のおかみさん寿子から「混雑して狭くてと丁寧なお詫びと山と自然をゆっくり楽しんで帰ってください」と優しい挨拶があった。

さて、今日は七倉岳から七倉乗越→北葛とまた2～300mのアップダウンを繰り返す、蓮華岳へは本格的な岩場登りも混ざる急登り（蓮華の大下り）となる。これが本日のハイライト。真夏の炎天下ストックをしまって鎖、ロープ、はしごの連続だ。



<本格的な岩稜登り 蓮華の大下り>



<頂上付近は、コマクサの群生するマイルドな表情の蓮華岳>

何とか登り切るとなだらかな広い蓮華岳頂上にたどり着く。周りは、ピークは過ぎたがコマクサが群生していた。緩やかな下り散歩で何とか針ノ木峠に着き、13:30 ミッション完了。



所がここからの下り、今年は上部に雪がなく→有名な針ノ木雪渓を歩けず、普段あまり通らない？夏道下りとなりコースタイム 2 時間のところ大沢小屋まで 3 時間もかかってまたまたバテバテ。途中出合いで冷たい水で気を取り直したが、谷側に傾いたザレ下山道は、気を抜くと危険。ロープやはしごも結構あって最後まで気を抜けない下山となった。扇沢駐車場ついてみれば 18:00 位となり今までの最高ロング行動時間（12 時間）であった。TAXI で七倉 P に戻り上原の湯で汗を流し帰集。途中渋滞もあり、当然終電はなくなる時間帯、メンバーをそれぞれ送って最後の帰宅は AM2:30 となった。とにかく大変だったが、天候にも恵まれ（地味な？）コースなりに景色も宿も素晴らしく、思い出に残る山行となった。

<余談・補足>

暑い真夏の山行は、次の水補給できる所まで十分な水が必要で、今回のような小屋や水場の少ないルートは、1 日で MIN2.5L 位の水のキャリーが必要と再確認した。体や足がバテる前に、適宜タイミング良く水分と食事（シャリ）を補給し、（糖分や塩分あるいはアミノバイタルも）前日はしっかり眠る事も大事です。

実は、今回水切れの男性に船窪乗越付近で出合い、水の小分けをお願いされたのでわれらグループで 600CC ほど都合してあげた。同じ日に烏帽子付近でやはり水切れ登山客の為にパトロールが水をもって急行したという話もあった。水キレで動けなくなることや熱中症も遭難一步手前と考え、しっかりした（水や食料）準備や行動を！とパトロールから案内があった。自分の許容重量の荷物担いでの真夏の 8~10 時間の終日行動における自分の体力、筋力の予測・把握とともに、しっかり自戒すべき項目と感じた。

<余談：船窪小屋>



船窪小屋は、立地面で裏銀座のはずれにあり人気ルートから外れアプローチも長い。そんな不遇な場所に 40 余年、松澤さんご夫妻の半生をかけての理想の小屋づくりの努力あって、知る人ぞ知るの一度は訪れたい人気の小屋となっている。食事も北アルプスの小屋でも 1~2 の人気。自然の素材を生かした寿子さんの手作り料理で疲れた体を元気にさせる。そして何より松澤さんご夫妻の心配り（安らぎとくつろぎおもてなし）が伝わってくる宿です。是非お勧めです。

霧の中、旅立ちてゆく背に向けて 安全の鐘 打ちて 祈らん（寿子さん）
我々も出発の時に、後ろから鐘で見送って頂きました。

—いつまでもお元気で！—